

奉存候。武邊の儀は他人との間に候はゞ、御出し被も可被成儀に候。御父子様の間に御出し抜き被成候て、其上御勘當の事御情なき被成様に御座候。武邊の儀にて御勘當被成候ては、最早中納言様御すたり被成候。か様に御骨を被折合戰被成候も、御子孫の御爲にて候儀に御座候處、御子孫に武士道の疵を御付被成、御家の武邊も是より衰へ申様に被成候事、無御思案儀奉存候旨、たゞみかけてしきりに被申上候處、權現様殊の外御せき被成、それはさか公事と申物に候。何が某出し被申事有之哉、申譯無之候はゞ御成敗可被成よし御怒に候。其時式部申上候は、朔日江戸御發馬被成候處、前日にも被仰下候はん處に、九日に至り候て信州へ相達申候。それより日夜御越被成候處、折節木曾川に水出候て、行さき踰躑いたし候間、是へ御參着にて候。是御出し抜にて無之候て何にて候哉と被申上候へば、權現様其は無實を申懸候。朔日發馬の事、前日に飛脚申付候。おそく候ても二三日の内には、信州へ相達申寄に候由被仰候へば、式部申候は飛脚九日に參着の事無紛候。其時分の御使に參候者に御尋可被成由申に付、其詮議被成候處、朔

日の前日江戸立申候へ共、折節川に水出候てなにとも不被參候て、九日に參着候由申候。其時式部申上候は、左様の儀も御詮議無之候て、中納言様御落度の様に被思召御勘當被成事、近頃無御思慮儀に奉存候旨申上候へば、權現様御迷惑被成候て御誤り被成候。今晩夜に入候へ共早速對顔可致候間、被參候様に申上候へと被仰候て其夜御對顔。なる程御機嫌よく御座候。翌日大津へ御移り、是に御滞留被成候内、井伊兵部大輔陣屋へ本多中務、榊原式部呼び被申、酒など進め被申、本多、榊原御小姓友達にて心易候故、互に枕にて咄し被申候。本多、此度の武邊ばなし誰彼と被申候時、亭主井伊被申候は、いや此度の此方ども武邊は申にたらぬ儀に候。式部此度内府様御前にて、中納言様御儀を被申上候事、さりとは無二の武邊と可申候。よく思て被見候へ。なにほど御勝利被得候ても、御父子様御不和に候ては何の益も無之儀に候。御合戰も御子孫の御爲にて候。然處に昨日杯の御怒にさし向ひ段々申上候事、一命を捨候て御爲に被申候。是に合せ候ては我等共此度の武邊は、申にたらぬ事に候由井伊殿被申候へば、本多も成程左様に候。式

部只今迄數度の武邊の中にも、是につゞき申武邊は有之間敷存候。成程井伊殿御申の通に候。去ども其に付不思議成事有之候。心に思ふ事はぬは隔心に候間申て見可申候。此度信州眞田が城をなせめつぶし候て不被參候哉。それを潰して參候へば、昨日の武邊にも及不申埒明申儀に候。それをあの佐渡ぢいが申程にとて、其に隨ひ無手に罷越事不審に候。御前様へさへ昨日の如く存分を申上候御手前が、佐渡守に對候て遠慮可仕様は無之候。是は不審に候由被申、三人笑候て事濟申由に候。此事も徳川記の類に有之様に覺候へ共、是程にくはしくは無之かと覺候故申進候。榊原關原以後すきと沙汰無之候。引こみ候て果被申候段々、本多佐渡守威を專にいたされ候ゆゑ、はり合候ては御爲にもよろしからぬ事に候。最早關原より天下は御手に入申事に候へば、さし出候て不入物と被存候ての事と相見え申候。殊勝成事に候。武邊ばかりにても無之、此時分の武邊者は格別の事にて候と、新井氏被申候。

一、河合又五郎儀に付江戸中の騒動

台徳院様御時に河合又五郎と申者有之、其時分江戸大騒動

の儀有之候。安藤右京進殿屋敷、其時分大名小路松平右衛門督殿御屋敷の向にて候。或時何者哉らん安藤殿玄關へ罷越、さる浪人をば打かくし申候。御家の儀見こみ候て願申儀に候。いかやうの御奉公に成共被召出被下候様にと奉存候。自分に訴訟申上候儀も如何に候故私を頼申候。近頃卒爾なる儀に候得共、至極難儀に及候故申上候由申に付、取次の者申候は、先御歸可有之、家老共へ申談御返事可申入候間、二三日中被參候へと申候て歸し申候。扱右京殿へ申候へば何とも合点不參儀に候。重て參候はゞそその躰を見可申候間、此方へ爲申聞候へと被申候。さて二三日過ぎ候て又參候て、先日願候儀御家老中へ被仰入被下候哉と申候故、先是へとて使者の間へ通し置候。右京進殿物かげより見被申候て、いかやうの奉公にても望申儀に候はゞ、只今掃除坊主人申候。是に成とも不苦哉と取次の者にいはせ被申候へば、何にても御奉公さへ仕儀に候はゞ不苦申申候て、さて日限極參申候。其日に罷成法躰いたし參候。見候へば右の男にて候。其時申候は、實は私事にて御座候得共、態と人に頼まれ申由申候故、皆々よく御似合候。隨分御勤候